

# ブライスマーファミリーの思い出

瀬川美恵子



右よりブライス長女春海、ブライス、富永惣一、妻芳子、筆者美恵子、ブライス妻富子、手前ブライス次女ナナ 学習院官舎にて 1956年(昭31)1月

ブライス先生の思い出を、ひと言記させていただきます。私は富永惣一(学習院大学名誉教授・国立西洋美術館初代館長)の次女でございます。又は初等科から学習院、東京帝国大学卒業後、学習院高等科の教官として、又、大学の教授として過ごさせて頂きました。終戦後、目黒の家の焼失の為、疎開先から目白の千登世橋近くの官舎に住まわせて頂きました。昭和二十二年頃のことと思います。官舎は右に三軒、左に三軒建てられ、我家は古い日本家屋でしたが、お隣りのブライス邸は白壁の洋風のお家。そこには私と同年のご長女春海ちゃんがいらして、すぐに仲良しになりました。春海ちゃんは、目白の自由学園幼稚園に通っておられ、私も一緒に連れて行って頂いたことを覚えております。

小学校入学にあたり、ブライス先生から「春海と同じ学校に通わせたい」というお話を頂き、二人揃って東京高等師範学校(現筑波大学)附属小学校に入学、高校まで十二年間、毎日一緒に登校しておりました。学習院大学も一緒でしたので、「二人で一人前」とも云われておりました。

子供の頃の学習院は広々として、すべてが遊び場でした。春海ちゃんは木登りもお得意でしたし、プールでおじちゃまと泳いだり、ガビという犬と走り廻っておられました。正門から入って右手は広い原っぱで、四葉のクローバーを探して幸せな毎日を過ごしておりました。そんなある日のこと、おじちゃまも自然が大好きでいらっしゃるので、子供ながら二人でお花をいっぱい摘んで、おじちゃまに喜んで頂こうと花束を差し出しましたところ、いきなり頬をピシヤリと叩かれました。「花の命を大切にしなければいけない」という教えを戴きました。七〇年以上前のことですが心に深く残っております。

先生は英国の方でいらっしゃいますが、仙厓禅僧を尊敬され、日頃は日本人と変らぬ生活をされていたように思います。クリスマスの時だけは応接間が一変し、壁に黒い布を貼り、紙で「東方の三賢人」のような旅人と星空を飾られていました。そのお部屋でおじちゃまはチェロ、春海ちゃんは第一バイオリン、私は第二バイオリンを緊張して音を出したことを思い出します。モーツァルトの「おもちゃの交響曲」等と記憶しております。おじちゃまは菜食主義でいらっしゃいましたが、ミルクとチョコレートはお好きでした。

戦後の辛い時代を春海ちゃんとブライス家の皆様のお蔭で、心豊かに過ごさせて頂きました。心から感謝申し上げます。

年	年齢	R.H.ブライス(1898年(明治31)～1964年(昭和39))略歴
1898年(明治31)		12月3日、英国エセックス州に生まれる。5歳でイルフォードのクリーブランド・ロード・スクール(7年制小学校)に入学。13歳でカウンティ・ハイスクール(5年制中学校)に入学
1916年(大正5)	18歳	第一次世界大戦中、良心的兵役拒否者としてロンドンのワームウッド・スクラップス監獄に収監され労働に従事する。このとき不殺生の精神が強固となり菜食主義者となる。1919年に釈放後、出身校のクリーブランド・ロード・スクールで6ヶ月間教師を務める
1920年(大正9)	22歳	ロンドン大学ユニヴァーシティ・カレッジに入学、英文学を専攻、1923年に優等第一級で卒業
1924年(大正13)	26歳	学友のアンナ・ベルコヴィッチと結婚(35年離婚)。京城帝国大学予科講師(英語)として着任、2年後に京城帝国大学講師となり英文学、ラテン語を教える
1927年(昭和2)	29歳	鈴木大拙の著書 <i>Essays in Zen Buddhism</i> に感銘を受け、禅の教えに強く惹かれる。翌年、のちの学習院長・安倍能成が京城帝国大学法文学部部長に就任
1930年(昭和5)	32歳	京城高等商業学校講師(英語)となる。その後同校に兼任した新木正之助(のちに学習院教授)と出会い、終生もつとも親しい友人となる
1936年(昭和11)	38歳	1年間の英国滞在を経て、京城に戻り京城帝国大学予科講師(英語)に復帰。翌年、来島富子と結婚
1938年(昭和13)	40歳	長沙洞妙心寺別院にて、華山大義老師のもとで禅の修行を始める。この頃、日本語俳句「かたつむり」を創作
1940年(昭和15)	42歳	日本へ移住。妻の故郷山口県萩市、その後東京の滞在を経て、旧制第四高等学校の傭入外国人教師となり、金沢市内の官舎に住む
1941年(昭和16)	43歳	日本への帰化願いを政府に提出するもかなわず。10月、金沢で鈴木大拙と面談。12月8日、太平洋戦争が始まり、金沢警察署内に抑留される
1942年(昭和17)	44歳	長女春海誕生。神戸のイースタンロッジ・ホテルの交戦国民間人抑留所に収容される。12月、 <i>ZEN IN ENGLISH LITERATURE</i> (『禅と英文学』)を北星堂書店より出版。その後 <i>HAIKU</i> (『俳句』全4巻/北星堂書店、1949年～52年刊)や <i>SENRYU</i> (『英文川柳』北星堂書店、1949年刊)などの執筆に取り組む。終戦までに収容所を2度移動。最後の収容所でロバート・エイトケン(のちにハワイ金剛禅道場師家となる)と出会う
1945年(昭和20)	47歳	神戸の空襲により家財道具、蔵書を失う。敗戦と同時に抑留生活を終え、10月に上京。東京帝国大学の斎藤勇の推薦により学習院傭入外国人教師となり官舎に居住。学習院長山梨勝之進の下で学習院存続運動に尽力。外務大臣吉田茂の委嘱により日本政府と皇室のためにGHQとの連絡係を務める。陸軍中佐ハロルド・ヘンダーソンとともに昭和天皇の人間宣言起草に加わる
1946年(昭和21)	48歳	学習院英文科教授に就任。皇太子(上皇陛下)の英語個人教授を終生務める。外務省研修所講師、東京大学講師、日本大学兼任教授、東京教育大学講師を務める
1947年(昭和22)	49歳	次女ナナ誕生。鈴木大拙とともに <i>THE CULTURAL EAST</i> を松ヶ岡文庫より刊行。翌年からは実践女子大学、早稲田大学、自由学園で教鞭を執る
1954年(昭和29)	56歳	<i>ZEN IN ENGLISH LITERATURE</i> および <i>HAIKU</i> 全4巻で東京大学より文学博士号を授与される。英国へ一時帰国を計画するが、外貨の持出制限のため難航、間ドル購入等の抜け道もあったが、不正を嫌い渡航を断念
1959年(昭和34)	61歳	5月、勲四等瑞宝章授与。8月、英国女王から外国勲章佩用許可状を受ける
1961年(昭和36)	63歳	山梨勝之進の世話で学習院官舎から大磯の家(下写真)へ移る
1964年(昭和39)		10月28日、脳腫瘍により死去(享年65)。戒名は不來子古道照心居士。学習院旧図書館(北別館)で葬儀、弔辞を安倍能成、新木正之助がよむ。鈴木大拙の意思により鎌倉東慶寺山内「鈴木大拙夫妻乃墓」の近くに埋葬

京城時代の職歴については「京城帝国大学一覽」に拠った  
作成：大川基子(学習院大学史料館臨時職員)



大磯の家。家の中央には太い松の木が床から天井まで突き抜けていたという

ミュージアム・レター第52号

令和5年(2023)12月20日発行  
〒171-8588 東京都豊島区目白1-5-1  
電話 03(5992)1173  
FAX 03(5992)9219



Gakushuin University Museum of History  
学習院大学史料館  
<https://www.gakushuin.ac.jp/univ/ua>